

浦安の舞

と き：平成二十四年五月十日

ところ：志木市本町二丁目

敷島神社境内

莊重・典雅な「浦安の舞」が奉納された。

浦安の舞は、近代に作られた神楽で、昭和天皇の御製「天地の神にぞ祈る朝なぎの海のごとくに波たたぬ世を」がその歌詞となっている。

緋袴を着けた、伝統的な白地の装束で、檜扇と鈴を持つて踊る本格的な群舞は、敷島神社の大祭に豪華な彩りを添えた。

























敷島神社

引又地区（現本町）の住民が、江戸後期から地区独自の鎮守として信仰していた村山稲荷（祭神 倉稲魂命）のほか、星野稲荷（祭神 倉稲魂命）と水神社（祭神 罔象女命）を元来この地にあった浅間社（祭神 木花開耶姫命）に合祀し、新しい鎮守として明治四十一年に創建された神社です。

五月の例大祭と十一月の勤労感謝祭には、浦安の舞の奉納が、六月の大祓には、人形流しと茅の輪くぐり（夏の悪疫除け）等の神事がそれぞれ行われていますが、特に七月の夏祭りは天王様のお祭りとして近隣の市町村にも知られた大祭です。

また、八月の火祭りは、お焚き上げとも言います。祭神木花開耶姫命が夫の瓊瓊杵尊に懷妊を怪しまれ、その証をたてるため八尋殿に火を放ち火の中で火照命・火闌降命・火折命を生んだ神話にちなむ火祭りで安産・火難・災難除けとされ、この時の薪の燃え残りを戸口につるして置くと盗難除けになるといわれています。

平成六年三月三十日

志木市教育委員会

二級社 敷島神社御祭典表

浅間神社 御祭 木花開耶姫命 このはなさくやひめのみこと

稲荷神社 御祭 倉稲魂命 うかの みたまのみこと

水神社 御祭 罔象女神 みずのはのめのかみ

一月一日 歳旦祭

二月十七日 大祭祈年祭

三月二十日 護国神社祭

五月十日 例大祭

六月三十日 夏の 大 祓

七月末の吉日 夏の祭

八月二十日 お火のまつり

九月二十三日 護国神社祭

十月十五日 七五三祝

十月二十三日 大祭勤労感謝祭

十二月三十日 大晦日大祓

神様のお庭ですので清浄に協力して
不潔にならぬ様注意しましょう

社務所

